

コリント人への手紙 II (コリント教会の皆さんへ II)

キリストの教えを伝えるのは、決して楽なことではありません。むしろ苦しいことのほうが多いでしょう。著者パウロの場合も、まさに苦難の連続でした。先の手紙で、コリント教会の問題が完全に解決したわけではありませんでした。特に、パウロが使徒かどうか引き続き問題になっていました。この手紙でパウロは、自分が使徒であることをくり返し主張しています。そのほか、いつも貧しい者を助けるように、というような実際問題も、述べられています。

一

1 神様からキリスト・イエスの使者に任命されたパウロと、信仰の友テモテから、コリントおよびギリシヤ全土に住むすべてのクリスチャンへ。 2 どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストが、あなたがた一人一人に、あふれるほどの祝福と平安とを、注いでくださいますように。

3 4 私たちの神様は、なんとすばらしいお方でしょう。神様は、主イエス・キリストの父であり、あらゆる慈愛の源です。そして、私たちが苦しみや困難にあえいでいる時、すばらしい慰めと励ましを与えてくださるお方です。 どうしてでしょう。それは、苦しみの中にあって、同情と励ましを必要としている人々に、私たちも、神様から受ける助けと慰めを与えることができるためです。 5 私たちがキリスト様のために苦しめば苦しむほど、慰めと励ましが、もっと豊かにキリスト様から与えられるという事実、これは確かです。 6 7 私たちが大きな苦しみに会うのも、あなたがたが神様の慰めと救いを受けるためです。 現に、苦しんでいる私たちを、神様は慰めてくださいました。それはまた、あなたがたのためでもあるのです。 すなわち、あなたがたが同じような苦しい境遇に立たされた時、神様の慰めが、どれほどやさしいものであるかを、私たちの体験から知るためです。 神様は必ず、苦しみに耐え抜く力を与えてくださるのです。

8 愛する皆さん。 私たちがアジャでなめた苦しみについて、ぜひ知っていただきたいと思います。 非常に激しい迫害を受け、打ちのめされて、もうこれ以上生き延びるのはむりかと思いました。 9 死を覚悟し、自分の無力さを痛いほど思い知らされました。 しかし、それがよかったです。 というのは、そんな状態の中で、何もかも神様にお任せしたからです。 救い出すことができるのは、神様だけです。 死人を復活させることさえ、できるお方なのですから。 10 やはり、神様は私たちを助け、恐ろしい死の危険から救い出してくださいました。 そしてこれからも、何度でも、救い出してくださいに違いありません。 11 あなたがたもまた、祈りによって私たちを助けてください。 それは、私たちの安全を願う、その祈りに、神様がはっきりと答えてくださるのを見て、あなたがたが、もっともっと感謝と賛美をささげるようになるためです。

12 私たちは、どのような場合にも、自分の知恵に頼らず、助けてくださる主に静かに信頼し、きよさと誠実さをもって行動してきました。 特にあなたがたには、そのようにふ

るまってきました。胸を張ってそう言えるのを、とてもうれしく思います。 1314 私の手紙は、単刀直入に、しかも、真心をこめて書いたものです。どちらにも取れるあいまいなことは、決して書いていません。それで、たとい今は、私についてあまりよく知らないあなたがたでも〔もっとも、いつかはよく知っていただきたいのです〕、私を受け入れ、私を誇りとしてくださるよう望みます。もちろん、今も、ある程度そうしてくれています。ちょうど、主イエスがもう一度帰って来られる日に、私があるあなたがたを誇りにするのと同じようにです。 1516 あなたがたの私に対する理解と信頼を確信したので、次のような計画を立てました。すなわち、マケドニヤへ向かう途中、まずコリントであなたがたに会い、また帰りにも立ち寄るという計画でした。そうすれば、あなたがたは二倍の祝福を受けることができ、私も、あなたがたに送られて、ユダヤへ行けるからです。

17では、なぜ計画を変更したのか、と尋ねるかもしれません。その決心が、まだ固まっていなかったからでしょうか。それとも、私も世間の人のように、ほんとうは「いいえ」のつもりで「はい」と言ったりしたのでしょうか。 18絶対にそんなことはありません。私がそんな人間でないことは、神様の真実さと同様に確かです。私の「はい」は、ほんとうに「はい」なのです。

19テモテとシルワノと私は、神の子キリスト・イエスについて語ってきました。この方は、「いいえ」の意味で「はい」と言われる方ではありません。いつも、ことばどおり実行なさいます。 20また、どれほどたくさんの神様の約束でも、ことごとく実行し、完成なさいます。それで私たちは、この方がどんなに真実な方か、すべての人に知らせ、その御名をほめたたえるのです。 21あなたがたや私を、忠実なクリスチャンとし、また私たちを、良い知らせを宣べ伝える使徒に任命してくださったのは、この神様です。 22また、神様のものとなった証拠の印を私たちに押し、私たちの心に聖霊様を遣わしてくださったのも神様です。この聖霊様は、私たちが神様のものであることの保証であり、また、神様が下さる最初の贈り物です。

23この神様に証人となっていただき、少しの偽りもない真実を述べましょう。私がまだ、あなたがたを訪問しないでいるのは、きびしくしかりつけて悲しい思いをさせたくないからです。 24コリントへ行く時には、〔もっとも、すでにしっかりした信仰を持っているあなたがたのために、私は、そうお役に立てるわけではありませんが〕あなたがたを喜ばせることをしたいと願っています。悲しみではなく、喜びをもたらしたいのです。

二

1私は、「コリントの人々を苦しめるような訪問は、二度とすまい」と、自分に言い聞かせました。 2もし私があるあなたがたを悲しませているとしたら、どうして喜べるでしょう。私を喜ばせることができるのは、あなたがただけです。それなのに、私があるあなたがたを苦しませているとしたら、どうして喜ばせてもらえるでしょう。 3前の手紙であのように書いたのは、私が行く前に、あなたがたの手で、事を処理してもらいたかったからです。

そうすれば、会って、一番喜ばせてくれるはずの人たちから、悲しい思いをさせられなくてすむでしょう。あなたがたの喜びと私の喜びとは、切っても切れない関係なのですから。私が喜び勇んで行くのでなければ、あなたがたも、幸福な気持ちにはなれません。

4 どんなにつらい思いであの手紙をしたためのことか！ 胸も張り裂けんばかりの思いで、正直なところ、泣いてしまったのです。傷つけるつもりなどさらさなく、あなたがたをどれほど愛しているか、また、あなたがたの間で起こった問題をどんなに心にかけているか、ぜひ知ってもらいたかったのです。

5 6 覚えておいてください。あの手紙に書いた、今度の事件の張本人は、私を悲しませたというより、あなたがた全体を悲しませたのです。——もっとも、私もずいぶん悲しい思いをしましたが。私はその人に対して、必要以上にきびしい態度をとりたくありません。彼は、みんなから責められて、もう十分罰を受けています。7 今はむしろ、赦し、慰めてやりなさい。そうしないと、あまりの悲しみと絶望に打ちひしがれて、立ち直れなくなるかもしれません。8 ですから、あなたがたが今もってどんなに深くその人を愛しているか、どうぞ示してやってください。

9 私の手紙は、あなたがたが、どのくらい私の指示に従ってくれるかを、確かめるためのものでした。10 あなたがたがだれかを赦すなら、私もその人を赦します。何であれ、私が赦したのは、キリスト様の權威によって、あなたがたのために赦したのです。11 赦さなければならない理由は、ほかにもあります。それは、サタンにあざむかれたいからです。私たちは、サタンのたくらみを知っているのですから。

12 さて、私がトロアスの町まで行った時、主は、良い知らせを宣べ伝える、絶好の機会を与えてくださいました。13 ところが、そこでは、信仰の友である、愛するテトスに会えなかったのが、彼がどこにいるのか、その身に何か起こったのではないかと、気がかりでなりません。そんなわけで、何とかしてテトスに会おうと、人々に別れを告げ、まっすぐマケドニヤに向かったのです。

14 しかし、神様に感謝します。神様は、キリスト様のお働きのゆえに、私たちを、勝利の行進に加えてくださいました。その目的は、私たちがどこにしようと、今、神様が私たちを通して、主のことを他の人々に告げ知らせ、良い知らせを、かぐわしい香水のように、あたりに広めてくださることです。15 神様に関するかぎり、私たちの生活には、すばらしい、かぐわしい香りが漂っています。それは、私たちのうちにあるキリスト様の香りであって、回りの救われている人々にも、救われていない人々にも、一つの香りなのです。16 救われていない人々にとっては、私たちは死と滅びの恐れに満ちた香りのように思われます。けれども、キリスト様を知る人々にとっては、いのちを与える香りなのです。しかし、このような任務にふさわしい者とは、いったいどんな人でしょう。

17 それはただ、私たちのように、神様から遣わされて、真心から語る者、キリスト様の力によって、神様の前で語る者だけです。私たちは、よく人がするように、神様のことを都合よく曲げて、売り歩くようなことはしません。

三

1 私は今、偽教師のまねをして自己推薦を始めているのでしょうか。あなたがたの身近にいる偽教師たちは、自分で自分を推薦したり、あなたがたあての長い推薦状を持って行ったりしなければならないような人たちです。しかし私は、だれからも推薦状を書いてもらう必要などないと思っていますが、いかがでしょう。また、あなたがたからの推薦状も必要ではありません。2 私に必要な推薦状は、あなたがた自身です。あなたがたの心の、そのすばらしい変わりようを見れば、だれにも、私たちの良い働きは一目瞭然です。3 あなたがたは、私たちが書いたキリスト様からの手紙であることが、だれにもわかります。それは、ペンとインキで書かれたのではなく、生きておられる神の御霊によって書かれたものです。石の板ではなく、人の心に刻み込まれた手紙です。

4 大胆にこのような自慢をするのは、キリスト様を通して、心から神様に信頼しているからに、ほかなりません。すなわち、神様は必ず、私たちのことばが真実となるよう助けてくださる、と信じているからです。5 不変の価値があることを、自分の力でできる、と考えているからではありません。私たちの力も成功も、ただ神様から来るのです。6 神様は、人々を救う新しい契約について、人々に知らせることができるよう、助けてくださいました。私たちは、「神様のおきてを全部守れ。さもないと滅びるぞ」と教えているのではありません。「聖霊様が新しいいのちを下さる」と教えているのです。「十戒」を守って救われようとする、古い方法の行き着く先は死です。しかし新しい方法によれば、聖霊様からいのちをいただけるのです。

7 けれども、死に通じる、おきてによる、その古い方法も、初めは輝かしい栄光をおびていたのです。その栄光のまばゆさに、イスラエルの人々は、モーセの顔をまともに見られないほどでした。従うべき神のおきてを示した時のモーセの顔は、神の栄光そのもので光り輝いていたからです。——もともと、その輝きは、やがて消え去る運命にあったのですが。8 とすれば、聖霊様がいのちを与えてくださる、この今の時には、はるかにすばらしい栄光を、期待できるのではないのでしょうか。9 死に通じる計画にも栄光があったのなら、人々を神様との正しい関係に導く計画には、なおさら、栄光が満ちあふれるのです。10 事実、モーセの顔の最初の栄光は、新しい契約の圧倒的な栄光に比べたら、取るに足りないものです。11 もし消え去ってゆく古い方法にも、天の栄光が満ちていたとすれば、私たちの救いのために立てられた神様の新しい計画には、はるかにまさった栄光があるはずで、それは永遠に続くものだからです。

12 この新しい栄光は、決して消え去らないと確信しているので、私たちはきわめて大胆に語れるのです。13 そして、モーセのように、栄光の消えていく様子をイスラエルの人々から隠すため、顔に覆いをかけたりはしません。

14 覆いがかけられたのは、モーセの顔だけではありません。イスラエルの人々の思いや、理解力も、覆われたのです。今でも、聖書が朗読される時、ユダヤ人の心と思いには、厚い覆いがかかっているように思えます。というのは、聖書のほんとうの意味を知

ることも、理解することもできないからです。この覆いは、キリスト様を信じてはじめて、取り除かれるのです。15確かに、今日でも、彼らがモーセの書を朗読する時、その心には覆いがかかったままです。それで、「十戒」に従うことこそ救われる道だ、と考えているのです。

16しかし、だれでも罪に背を向け、主のほうに向く時、その覆いは取り除かれます。17主は、いのちを与えてくださる御霊です。御霊のおられるところには自由があります。

〔それは、神のおきてを守って救われようとするところからの解放です。〕18しかし、私たちクリスチャンには、顔の覆いがありません。鏡のように、主の栄光をはっきり映すことができます。そして、主の御霊がうちで働いてくださるにつれて、私たちはますます主に似た者となるのです。

四

1 神様の良い知らせを伝えるという、このすばらしい務めに、私たちが任命してくださったのは、神様ご自身です。それは、あわれみによるのです。ですから、私たちは、決して落胆しません。2信じさせるために、あれこれたくらむようなまねはしません。だましたりは、したくないのです。書かれてもいないことを、聖書の教えであるかのように思わせることも、決してしません。そのような恥ずかしい方法は、絶対に用いません。語る時には、神様の前に立って真実を語ります。私たちが知っている人はみな、このことを認めてくれるはずです。

3もし私たちの宣べ伝える良い知らせが、だれかの目に隠されているとしたら、永遠の滅びに突っ走っている人に対してです。4それは、この邪悪な世の神であるサタンのしわざです。目隠しをさせて、その人の上に輝いている良い知らせの栄光が、見えないようにしているのです。また、まことの神、キリスト様の栄光に関する、私たちのすばらしい証言を、理解できないようにしているのです。5私たちは、自分のことを宣伝しているわけではありません。主であるキリスト・イエスのことを、宣べ伝えているのです。自分については、ただ、イエス様が私たちのために成し遂げてくださったことを知ったので、あなたがたに仕える者となった、とだけ言うておきます。6というのは、「やみの中に光が輝け」と言われた神様が、私たちに、イエス・キリストの顔にある神の栄光の輝きを、理解させてくださったからです。

7しかし、このすばらしい宝〔いま私たちのうちに輝いている光と力〕は、こわれやすい器〔私たちの弱い肉体〕の中に入っています。うちにある、その栄光に満ちた力が、確かに神様から与えられたものであって、私たち自身から出たものでないことは、だれの目にも明らかです。

8私たちは四方八方から苦しめられ、圧迫されますが、押しつぶされ、打ちのめされることはありません。「どうしてこんなことが……」と途方にくれるようなことが起きても、絶望して投げ出したりはしません。9迫害されていても、神様は決してお見捨てになりません。打ち倒されても、また立ち上がって、前進を続けます。10この体は、かつ

てのイエス様がそうであったように、いつも死に直面しています。ですから、私たちを安全に守ってくださる方は、うちに生きておられるイエス様だけであることが、だれの目にも明らかになるのです。

1 1 まことに、私たちは、主に仕えているために、絶えず死の危険にさらされています。しかし、そのことでかえって、死ぬべき私たちの体によって、イエス・キリストの力を明らかに示す機会が、常に与えられているのです。1 2 私たちは、良い知らせを宣べ伝えているために、死に直面しています。しかしその結果、あなたがたに永遠のいのちが与えられるのです。

1 3 旧約聖書の詩篇の作者は、「私は信じている。それゆえに語る」と言いました。同じように私たちも、自分が神様の守りの中にあることを確信して、信じていることを大胆に語ります。1 4 主イエス様を死から復活させてくださった神様が、私たちをもイエス様と共に復活させ、あなたがたといっしょに御前に立たせてくださることを、信じています。1 5 こんな苦しみに甘んじているのも、あなたがたのためを思うからです。キリスト様に導かれる人が増えれば増えるほど、その大きな恵みを感謝する気持ちがますます満ちあふれ、主の栄光がますます明らかになるのです。

1 6 ですから、私たちは決して落胆しません。肉体はしだいに衰えますが、うちにある力は日ごとに強くなってゆきます。1 7 今の私たちの苦しみや悩みは、結局のところ、取るに足りないものであり、それほど長続きもしません。しかも、このつかの間の苦しみは、永遠に尽きない、あふれるばかりの、神様の祝福をもたらすのです。1 8 ですから私たちは、いま見えるもの、すなわち、身の回りの苦しみには目をとめません。むしろ、今は見えない天にある喜びを望み見ているのです。苦しみは、やがて消え去ります。しかし、その喜びは、永遠に続くのです。

五

1 私たちがいま住んでいる、天幕の家が取りこわされると〔すなわち、私たちが死んでこの肉体を離れると〕、天にある新しい体、永遠に保証された家がいただけるのです。それは、人の手ではなく、神様の手でつくられた家です。2 今のこの体には、もう飽き飽きしています。だからこそ、天上の体をまるで新しい着物のようにまとえる日を、首を長くして待っているのです。3 それを着れば、体のない霊だけの状態であることはないからです。4 この地上の体のために、嘆きやうめきがありますが、だからといって、死んで、体のない状態になりたいとは思いません。その新しい体にもぐり込みたいと願うばかりです。そうすれば、この死ぬべき体が、言わば、永遠のいのちに呑み込まれてしまうからです。5 これこそ、神様が私たちのために用意してくださったことであり、その保証として、聖霊様を遣わしてくださったのです。

6 いま私たちは、確信をもって、天上の体を待ちこがれています。また、このように地上の体で過ごしている間は、イエス様と共に過ごす、天上の永遠の家から離れていることも、よく知っています。7 実際に見ることによってではなく、信じることによって、こ

れを事実と認めているのです。 8ですから、少しも恐れません。むしろ、死ぬことは願わしいのです。それは、天の家に主と共に住むことを意味するからです。 9そういうわけで、地上でこの肉体でいようと、肉体を離れて主と共に天にいようと、私たちの目的は、何をするにも、いつも主に喜ばれることです。 10なぜなら、やがて私たちはみな、キリスト様の前で、さばきを受けなければならず、全生活がさらけ出されることになるからです。善であれ悪であれ、地上の体でいる時の行ないに応じて、私たちはそれぞれ、ふさわしい報いを受けるのです。

11ですから、私たちの心には、いつも主を恐れかしこむ厳粛な思いがあります。それで、ほかの人々を説得しようと、やっきになっているのです。それが純粋な気持ちから出ていることを、神様はご存じです。だから、あなたがたにも、このことをはっきり知っていただきたいと、心から願っているのです。

12またもや、私たちが自己推薦を始めたと思いますか。そうではありません。ただ、あなたがたに手ごろな武器を供給しようとしているのです。この武器があれば、外見のりっぱさと説教のうまさとを誇りながら、その実、心の中は偽りと不誠実で満ちている説教者に対抗できます。少なくともあなたがたは、私たちの動機が正しく、しかも誠実である点を誇ることができるのです。 13 14自分のことをこのように言うとは、気が狂っているのでしょうか。もし気が狂っているとすれば、それは神様の栄光のためです。もし正気であるなら、あなたがたのためです。確かに、私たちは何をするにしても、自分の利益を求めめるのではなく、キリスト様の愛に動かされて、しているのです。キリスト様が私たちすべてのために死んでくださったことを信じる以上、自分が、今までの古い生活に対して死んだことも信じなければなりません。 15キリスト様は、全人類のために死んでくださいました。それは、キリスト様から永遠のいのちをいただいて生きる人がみな、もはや自分を喜ばせるためではなく、自分のために死んで復活されたキリスト様に喜ばれるように生きるためです。 16ですから、世間の評判や、外見の良し悪しで、クリスチャンを評価するのはやめなさい。以前、私は、その誤った考え方で、キリスト様のことを、単に自分と同じ人間とみなしていました。しかし今では、その考えは一変しました。 17だれでも、クリスチャンになると、内側が全く新しくされます。もはや今までと同じ人間ではありません。新しい人生が始まったのです。

18この新しい出来事はすべて神様から出ています。神様は、キリスト・イエスのお働きによって、私たちをご自分のもとに連れ戻してくださいました。そして、この恵みによる神様との和解を、すべての人に勧める特権をも、私たちに与えてくださったのです。

19つまり、キリスト様によって、この世をご自分と和解させ、その罪を数え立てずに、かえって、帳消しにしてくださいました。これが、人々に伝えるようにと私たちにゆだねられた、すばらしい知らせです。 20私たちはキリスト様の大使です。神様が、私たちの口から語りかけるのです。あたかも、キリスト様がここで懇願しておられるかのように、お願いします。どうか、せっかく差し出された愛を拒まず、神様と和解して

ください。 2 1 というのは、神様は、罪のないキリスト様に私たちの罪を背負わせ、それと引き換えに、私たちに恵みを注いでくださったからです。

六

1 私たちは、神様と共に働く者として、お願いします。 神様の大きな恵みに関する、すばらしい知らせを聞き逃さないように、気をつけてください。 2 神様はこう言われるからです。

「歓迎の門が大きく開かれている恵みの時に、

あなたの叫びはわたしに届いた。

救いが差し出されている日に、

わたしはあなたを助けた。」

まさしく今、神様はあなたがたを、喜び迎えようとしておられます。 今日、救おうとしておられます。

3 私たちの行動が、だれかをつまずかせたり、主との出会いを妨げたりすることがないように、生活態度には気をつけています。 私たちの欠点が、主を非難する口実に用いられたら大変だからです。 4 事実、あらゆる点で、自分がほんとうに神様に仕える者であることを示そうと努めています。 次から次へと襲ってくる悩み、苦しみ、困難にも、しんぼう強く耐えています。 5 むちで打たれたことも、投獄されたことも、怒り狂う暴徒に取り囲まれたこともありました。 ある時は力尽きるまで働き、ある時は一睡もせずに夜を明かし、また食べる物のない日もありました。 6 健全な生活と良い知らせに対する理解と、忍耐とによって、自分の口に偽りが無いことを証明してきました。 いつも親切にし、愛に富み、聖霊様に満たされてきました。 7 何をするにも、神様の力に助けられて、真実を貫いてきました。 神様を敬う人に備わる、すべての武器——防衛と攻撃の武器——を、いつも手にしていました。

8 人に尊敬されようと軽べつされようと、あるいは非難されようと賞賛されようと、主への忠誠に変わりはありません。 人からはうそつきと呼ばれようと、私たちは正直です。

9 この世から無視されても、私たちは神様に認められています。 死に直面しながら生きていても、こんなに生き生きしています。 傷つけられたこともありますが、死を免れてきました。 1 0 心に痛みがありますが、主の喜びも同時に持っています。 貧しくても、ふんだんに霊の贈り物をしています。 何も持っていなくても、あらゆるものに満たされています。

1 1 愛するコリント教会の皆さん。 私は心にあることをみなお話ししました。 私は心の底から、あなたがたを愛しているのです。 1 2 今なお私たちの間に冷たいものがあるとしても、私に愛が欠けているせいではありません。 あなたがたの愛があまりにも少なく、私まで届かないのです。 1 3 今、実の子供に対するように、あなたがたに話しています。 どうか心を開いてください。 私たちの愛にこたえてください。

1 4 主を愛していない者の仲間入りをしてはいけません。 神の民と罪の民との間に、い

ったいどんな共通点があるでしょう。 光と暗やみとが、どうして共存できるでしょう。
15 キリスト様と悪魔との間に、なんの調和がありえましょう。 クリスマスは、信じていない人と、どうして手をつなぐことができますでしょう。 16 神の宮と偶像との間に、なんの一致があるでしょう。 あなたがたは神の宮であり、生ける神の住まいなのです。神様はあなたがたについてこう言われました。

「わたしは彼らのうちに住み、
その間を歩む。

わたしは彼らの神となり、
彼らはわたしの民となる。」

17 それゆえ、主はこう言っておられます。

「彼らから立ち去り、縁を切れ。
その汚れたものに触れてはならない。
そうすれば、わたしはあなたがたを迎え入れ、

18 あなたがたの父となり、
あなたがたはわたしの息子、娘となる。」

七

1 愛する皆さん。 私たちは、このようにすばらしい約束を与えられているのですから、肉体と霊を汚すいっさいの悪ときっぱり縁を切って、自分をきよめようではありませんか。そして心から恐れかしこみつつ、ただ神様だけに、自分をささげようではありませんか。

2 どうか、もう一度心を開いてください。 だれ一人、私たちから害を受けた人はいないはずです。 また、惑わされた人もいません。 私たちがだましたことも、人をうまく利用したこともありません。 3 あなたがたをしかったり、責めたりするつもりで、こう言うのではありません。 前にも言ったように、私はいつも心の中であなたがたのことを思い、あなたがたと生死を共にしているのです。 4 限りない信頼を寄せ、あなたがたを、たいへん誇りに思っています。 おかげで大いに勇気づけられました。 さまざまの苦しみの中でも、いつも幸福でした。

5 マケドニヤに着いた時、私たちには、少しの安らぎもありませんでした。 外側には四方八方に困難が立ちふさがり、内側は恐れと不安でいっぱいでした。 6 その時、意気消沈している者を励ましてくださる神様は、テトスの到着によって、元気づけてくださいました。 7 また、テトスの到来もさることながら、彼があなたがたのところですばらしい時を過ごしたと聞いて、とてもうれしく思いました。 あなたがたが、どんなに私の訪問を待ちこがれているか、この前の事件でどんなに嘆き悲しんでいるか、また、どんなに私に忠実であり、心から愛してくれているかを、彼が報告してくれました。 それを聞いて、私はほんとうに喜びました。

8 あの手紙を書き送ったことを、もう後悔してはいません。 実は、あれが、あなたがたをどんなに苦しめたかを知って、一時はとても後悔したのです。 けれども、あなたがた

を苦しめたのは、つかの間にすぎませんでした。 9 今では、あの手紙を送ってよかった、と思っています。 苦しませたからではなく、その苦しみのおかげで、あなたがたが神様に立ち返ったからです。 それは、神様がご自分の民に経験させたいと望んでおられる、良い意味での悲しみだったのです。 もうこれで、そちらに行きびしくしからないうすみます。 10 罪と縁を切らせ、永遠のいのちを求めさせるために、時々、神様は、悲しみを与えます。 そのような悲しみを、嘆いてはなりません。 しかし、クリスチャンでない人の悲しみは、真の悔い改めの悲しみではなく、永遠の死を食い止める力がありません。

11 考えてもごらん下さい。 主が与えられたこの悲しみは、どんなに益となったことでしょう。 あなたがたはそこで絶望せず、かえって、私が手紙で指摘した罪を取り除こうと、真剣に誠意をもって、しかも熱心に努力しました。 あんな出来事が起こったことに恐れをいただき、私の来訪と助けとを心から願うに至りました。 正面からこの問題に取り組み、罪を犯した者を処罰して、問題を解決しました。 実際、事態を正しく処理するために、あなたがたは、できる限りのことをしたのです。

12 あの手紙は、あなたがたが、どんなに私たちのことを心にかけていてくれるか、主の前で明らかにするために書きました。 実は、これこそ、例の罪の張本人や被害者である父親を助けること以上に、私が願ったことなのです。

13 こうして、あなたがたの愛を知り、私たちは大いに勇気づけられました。 その上、テトスの喜びが加わって、喜びも倍増しました。 あなたがたがテトスをあたたかく迎え入れ、くつろがせてくれたおかげです。 14 テトスの出発前に、私は、あなたがたのことを誇りに思っていると話しておきましたが、よくぞ信頼にこたえてくれました。 私はいつも真実を語ってきましたが、テトスに誇ったことも、うそではなかったと証明されたのです。 15 テトスは、あなたがたが彼のことに喜んで耳を傾け、非常な心づかいと深い関心をもって受け入れてくれたことを思い出しては、今まで以上に、あなたがたへの愛を深めています。 16 いま私たちの間には、以前と同様、なんのわだかまりもなくなり、ほんとうにうれしくてたまりません。 再び、あなたがたに全幅の信頼を寄せることができるのです。

・

八

1 ところで、神様が、マケドニヤの諸教会にどんな恵みを施されたか、お知らせしたいと思います。

2 多くの試練や困難のただ中であつたマケドニヤの諸教会が、ひどい貧しさにもかかわらず、喜びに満ち、その結果、惜しみなく、あふれるほど他の人々に施すようになりました。

3 自分たちの力に応じてささげただけでなく、力以上にささげました。 誓ってもいいのですが、私がやかましく催促したからではなく、自発的にそうしたのです。 4 「エルサレムのクリスチャンを援助できるなんて光栄です。 ぜひその献金の仲間に入れてくだ

さい」と、熱心そのものでした。 5何よりもすばらしいのは、彼らが期待をはるかに超えることをしてくれた点です。 まず、自分自身を主にささげ、また私たちにもゆだねてくれました。 つまり、神様が私たちを通して、どんなことをお命じになっても、それに従うためです。

6このような献金に対する彼らの熱意を見て、私たちはテトスに、あなたがたのところへ行くよう強く勧めたのです。 初めに献金を勧めたテトスが、この際、あなたがたを励まして、献金の奉仕を完了させるのがよいと思ったからです。 7あなたがたは、多方面にわたって指導的立場にある人々です。 あつい信仰も持っています。 すぐれた説教者も大ぜいいます。 広い知識、燃えるような熱心、私たちに対するあふれるほどの愛も持っています。 そこで今、喜んでささげるという精神においても、指導者になっていただきたいのです。 8これは命令ではありません。 献金しなければならない、と言っているわけではありません。 ただ、ほかの人々の献金に対する熱心さを話しているのです。 でも、この献金の奉仕は、あなたがたの愛が、単に口先だけにとどまらず、真実のものだと証明する、一つの手段にはなるでしょう。

9あなたがたは、主イエス・キリストが、どんなに愛と恵みに満ちておられたかを知っています。 あれほど富んでおられた主が、あなたがたを助けるために、あれほど貧しくなられました。 その貧しさによって、あなたがたを富む者とするためでした。

10一年前に始めたことを、この際、やり遂げてみたらどうでしょう。 この献金を最初に申し出たのも、最初に実行に移したのも、あなたがたなのですから。 11あんなに熱意をもって始めたのですから、自分の持っているものの中から、ささげられるものは、みなささげ、喜んでこの計画を完成すべきです。 最初の熱意が、現在の行動にも現われてほしいものです。 12ささげる熱意がほんとうにあるなら、いくらささげるべきかは、問題ではありません。 神様は、持っていないものまで、ささげるようにとはおっしゃいません。

13私は、献金を受ける人たちが、あなたがたの犠牲によって楽をするのは当然だと言っているのではなく、 14両者が分け合うべきだと言っているのです。 現在あなたがたは豊かなので、彼らを援助できます。 そして、今度いつか、あなたがたに助けが必要な時は、彼らが助けてくれるでしょう。 こうして、互いに、必要なものを受け取るのです。

15このことについて、旧約聖書に何と書いてあるか、覚えていますか。 「多く集めた者も余ることがなく、少ししか集めなかった者も足りないことがなかった」とあります。 ですから、困っている人たちと分け合いなさい。

16テトスも私と同じように、心からあなたがたのことを思っています。 テトスをこのような気持ちにさせてくださった神様に感謝します。 17彼は私の勧めに喜んで従い、もう一度あなたがたのところへ行こうとしています。 ——もつとも、私が勧めなくても、彼はやはり行くことにしたでしょう。 心から、あなたがたに会いたがっているのですから。 18もう一人の、よく知られている友人を同行させます。 この人は、キリスト様

の良い知らせを宣べ伝える者として、どこの教会でも大いに賞賛されている人です。 19 9その上、私と共にエルサレムに献金を届ける役目に、諸教会から選出された人です。この働きは、主の栄光を現わし、また、互いに助け合おうとする、私たちの熱意を示すものです。 20 このように同行者を連れて行くのは、だれにも、疑いをさしはさむ余地を与えないためです。この多額の献金の取り扱いについては、一点の非難も受けてはならないと、気を配っているのです。 21 私たちの公明正大さを、神様はご存じですが、それが他のすべての人にも明らかになってほしいので、このように取り計らいました。

22 また、もう一人の友人にも行ってもらいます。実に多くの点で、この人が熱心なクリスチャンだとわかります。あなたがたが献金に熱心であることを話したところ、彼は特別関心を持った様子で、今度の旅行を心待ちにしています。

23 もしだれかにテトスのことを聞かれたら、あなたがたのために働く私の協力者だ、と答えてください。また、ほかの二人の友人については、こちらの教会の代表で、クリスチャンのすばらしい模範だ、と言ってください。

24 どうか、私にと同様、この人たちにも愛を示してください。そして、私が公の場で、「コリント教会の人たちなら、きつこうします」と誇ってきたことを裏づけてください。

九

1 神の民である人々を援助することについては、今さらとやかく言う必要はありません。

2 その件についての、あなたがたの熱心さを知っているからです。一年も前から献金を送る準備を進めてくれていることを、私はマケドニアの友人たちに誇ってきました。実際、その影響を受けて、多くの人が、他者への援助を始めたい気持ちに駆り立てられたのです。 3 ところで、今度、この友人たちに行ってもらうことにしたのは、私の誇りどおり、あなたがたが、ほんとうに献金をすっかり集めて準備しているか確かめるためです。

私の自慢が今度は当てはずれになった、などということのないよう願っているのです。 4 もしマケドニアの人たちが私といっしょに行って、あなたがたが、まだ準備していないのを見たら、どうでしょう。あれだけ信じきっていた私は、赤恥をかくことになるでしょう。そしてもちろん、あなたがたも、恥ずかしい思いをするでしょう。

5 そこで、あなたがたが前に約束した贈り物の準備が、すっかり整っているかどうか見るために、この友人たちにお願ひして、先発隊として行ってもらうことにしました。それが真心からの贈り物であって、強制されたものでないようにと願っています。 6 しかし、次のことは心にとめておいてください。すなわち、少ししか与えない者は、少ししかもらえない、ということです。少ししか種をまかない農夫は、わずかの収穫しかあげられません。たくさんまけば、たくさん刈り取ります。 7 いくらささげたらよいかは、各自が決めるべきです。自分はこれだけささげようと思っている人に、もっとたくさんささげるように強制してはいけません。神様にとっては、喜んで与えるかどうかの方が大事なのです。 8 神様は、必要なものは何でもあり余るほど与えて、不足がないようにしてください。それで、必要が満たされたあと、なお十分な余裕があるので、他の人々に

喜んで分けることができるのです。 9 聖書にこう書いてあるとおりです。

「神を敬う人は、貧しい人々に惜しみなく与える。

その良い行ないは、永遠に名誉となる。」

10 農夫にまく種を与え、そのあとに、食べるための収穫物をふんだんに与えてくださる神様は、あなたがたにも、まく種をもっとたくさん下さり、それをふやしてくださいます。すると、あなたがたはその収穫の実をもっとももっとたくさん、人に与えることができるのです。

11 そうです。 神様からたっぷりいただいたあなたがたは、人にもたくさん贈ることができるのです。 そして、私たちが、その贈り物を必要としている人々に届ける時、そこには感謝が満ちあふれ、あなたがたの援助のゆえに神様への賛美がわき上がるのです。 12

そういうわけで、その贈り物は、二つのすばらしい結果を生み出します。 すなわち、困っている人々が助けられること、そして、彼らの神様に対する感謝の念が満ちあふれることです。 13 援助を受けた人々は、自分たちや他の人々に対する気前のよい贈り物に大喜びするだけでなく、あなたがたが教えに忠実に行動している証拠を見て、神様をあがめることでしょう。 14 また、あなたがたを通して神様のすばらしい恵みを知り、熱心に真心から、あなたがたのために祈るようになるでしょう。

15 神様のひとり息子という、言い表わせないほどすばらしい神様の贈り物を感謝します。

一〇

1 お願いがあります。 このパウロが、キリスト様の態度にならって、おだやかにお願いします。 あなたがたの中には、今でも、「パウロは遠く離れていると、ずいぶん強気じゃないか。 ところが面と向かうと、大きな声も出せないほど、弱気になるんだからなあ」と言っている人がいます。

2 私がそちらに行って、わざわざ、きびしく大胆にふるまってみせなくてもすむように、と願っています。 もっとも、私の言動が普通の人間と少しも変わらないと、たかをくくっている人々に対しては、きびしく大胆にふるまうつもりですが……。 3 私のごくあたりまえの弱い人間であることは事実です。 しかし私は、戦いに勝つために、人間的な計画や方策を用いません。 4 悪魔の要塞を打ち破るために、人間の手によらない、神様の強力な武器を使います。 5 この武器は、神様に逆らう、あらゆる高慢な議論と、人々の目から神様を隠している、あらゆる壁を打ち砕きます。 この武器を用いて、私は、反抗する者を捕虜として神様に連れ戻し、回心させて、キリスト様に従わせます。 6 まず、あなたがたにこの武器を向け、キリスト様に従わせたあとで、残りのすべての反抗する者に、挑戦するのです。

7 あなたがたは私を、弱々しく無力な人間だと思っています。 それが問題なのです。 うわべしか見ていません。 けれども、もし必要があれば、私だってキリスト様の力と権威を見せることができるのです。 8 あなたがたに対する権威——それは人を助けるためのものであり、傷つけるためではありません——を、必要以上に誇っているように見えるか

もしれません。しかし、それについては多少誇りすぎても、恥とはならないでしょう。9 こう言うのも、手紙での叱責が、ただの脅しと受け取られたくないからです。

10 こう言う人もいます。「パウロの手紙なんか気にするな。偉そうなことを言っても、口先だけさ。実際に会ってみればよくわかるよ。いかにも頼りなげで、あれほどへたな説教者はいないな。」11 こんな人たちに対しては、今度そちらに行ったら、手紙の文面どおり、きびしくふるまうつもりです。

12 よく、自分はいへんすぐれた人物だと、自己宣伝をする人がいますが、私は、そのまねをするつもりはありません。彼らは、ただ、お互いに比較し合ったり、つまらない尺度で、自分を評価したりするのです。なんてばかげたことでしょう！

13 しかし私たちは、持ってもいない権威を誇るようなことはしません。私たちの目標は、神様が立ててくださった計画を実行することです。それには、そちらであなたがたのために働くことも含まれています。14 私たちは、自分の分もわきまえずに、権威をふり回しているわけではありません。キリスト様についての良い知らせを、最初にあなたがたに伝えたのは、私たちなのですから。15 ほかの人の業績を、自分のものだと主張しているではありません。ただ、あなたがたの信仰が成長し、〔私たちに許された限度内であっても〕あなたがたの間での私たちの働きが、大いに広がることを望んでいるのです。

16 そして、さらに遠くの町々、まだだれも働いていない町々にまで、良い知らせを宣傳することができるのです。そうすれば、だれかの活動領域を荒らしたというような問題は、起きないでしょう。17 「誇りたい者は、主のなさったことを誇れ。自分を誇るな」と旧約聖書にあるとおりです。18 自分を誇り、その業績を自慢する人は、つまらない人間です。しかし、主の推薦を受ける人は、真に価値ある人です。

――

1 私が愚か者のように話し続けるのを、こらえてください。私の心のうちを、我慢して聞いてください。2 神様の深い思いやりをもって、あなたがたのことを心にかけています。ちょうど清純なおとめが、やがて夫となる人に愛をささげるように、あなたがたが、ただキリスト様だけをひたむきに愛するよう願っているのです。3 しかし、エバがエデンの園でサタンに惑わされたように、キリスト様に対する、きよい純真な献身の思いが消えてしまうのではないかと、心配でたまりません。4 あなたがたときたら、どうもだまされやすくで……。だれかが、私たちの伝えたのとは違う教えを伝えたり、あなたがたが受けた聖霊様とは違う霊を伝えたり、あなたがたが救われたのとは違う救いの道を教えたりしようものなら、それを信じてしまうのですから。

5 けれども、そんなお偉い自称「神の使者たち」が私よりすぐれているとは思いません。

6 たとい口べたであっても、少なくとも、自分が話している内容は、よく知っています。それは何度も証明してきたことなので、もうよくわかっていることと思います。

7 あなたがたから何の報酬も受けずに、神様の良い知らせを宣傳伝えたことは、まちがい

だったのでしょうか。 そのために自分を安っぽく見せて、見下げられてしまったのでしょうか。 89何の負担もかけないで奉仕したいと、あなたがたのところにいる間、他の諸教会から送ってもらって、つまり「奪い取って」、その費用をひねり出していたのです。それが底をついて、食べる物に事欠いた時も、あなたがたにはいっさい要求しませんでした。 マケドニヤのクリスチャンたちが、別の贈り物を持って来てくれたからです。 あなたがたに、ただの一円も求めたことのないこれまでと同様、今後もそのつもりでいます。 10このことは、あらん限りの真実にかけて、ギリシヤに住むすべての人に約束します。 11なぜそうするのでしょう。 あなたがたを愛していないからだでも？ とんでもない。 どれほど愛していることか！ 神様をご存じです。 12しかし、今のやり方を、これからも続けるつもりです。 それは、私たちと同じように神様のために働いている、と誇る人たちの根拠を、くつがえすためです。

13彼らは、決して神様から遣わされた者ではありません。「ペてん師」です。 人をだまして、てっきりキリスト様の使徒だと思い込ませるのです。 14しかし、今さら驚きもしません。 サタンでさえ、光の御使いに変装できるのです。 15ですから、サタンの手下どもがまねして、敬虔な牧師になりすましたとしても、別段、驚くことはありません。 最後には、その悪事にふさわしい罰を、徹底的に受けるのです。

16もう一度お願いします。 こんなことを言う私が、理性を失ったなどとは、思わないでください。 しかしまた、それならそれで、「理性を失った愚か者」のことばに、とにかく耳を傾けてください。 あの人たちみたいに、私も少しばかり誇ってみせます。 17こんな自慢話は、主に命じられてするものではありません。 私は、知恵のない愚か者のつもりなのですから。 18自分の偉さをしきりに言いふらす、ほかの人のまねを、してみましよう。 19[りこうさを誇るあなたがたなのに、よくも、ほくほく顔で、あの愚か者たちの言うことを聞いていますね。 20奴隷にされても、持ち物を奪われても、利用されても、いばられても、顔をたたかれても、よく平気でいられますね。 21口にするのも恥ずかしいことですが、私は弱くて、とてもそんなまねはできません。 しかし、彼らが誇るくらいのことは何でも——またもや愚か者に甘んじますが——私だって誇れるのです。]

22彼らは、ヘブル人だと自慢しているのですか。 私もヘブル人です。 神様の選びの民、イスラエル人だと言うのですか。 私もそうです。 アブラハムの子孫ですか。 私もそうです。

23彼らは、キリスト様に仕えていると言うのですか。 しかし、私はもっと仕えてきました。 [こんなに自慢をする私は、気でも狂ったのでしょうか。] 彼らよりずっと苦勞して働いてきました。 投獄されたこともかなりの回数に及び、むち打たれたことは数えきれず、何度も何度も死に直面しました。 24ユダヤ人から、三十九回の恐ろしいむち打ちの刑を受けたことが五度あります。 25それから、むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、一昼夜、海上を漂ったことが一度あります。

26 幾度も長い苦しい旅をし、川がはんらんしたり、強盗に襲われたり、同国人からも外国人からも迫害されたりして、何度も危険な目に会いました。 町々では暴徒に取り囲まれ、荒野や嵐の海でやっと命びろいしたこともあります。 クリスマスだと自称しながら、実はそうでない人たちに苦しめられたこともあります。 27 疲れ果て、苦しみ、たびたび眠れない夜を過ごしました。 飢え渴き、食べ物もなく過ごしたことも、しょっちゅうです。 また服もなく、寒さに震えていたこともありました。

28 こんなことのほかに、絶えず、諸教会がどうなるかという心配をかかえています。 29 誤った道を進んでいる人を見て、悲しまないでいられるでしょうか。 倒れている人を見て、知らん顔ができるでしょうか。 精神的に痛手を受けている人を見て、傷つけた相手を激しく怒らずにいられるでしょうか。

30 しかし、もしどうしても誇る必要があるなら、私はむしろ、自分を弱く見せる事柄を誇ります。 31 主イエス・キリストの父なる神、永遠にほめたたえられる方は、私が真実を語っているのをご存じです。 32 一つ例をあげましょう。 ダマスコで、アレタ王の代官が、私をつかまえようと、町の門を厳重に見張っていました。 33 しかし私は、町の城壁の穴から、綱のついたかごで降り降ろされ、逃げる事ができたのです。 これは、よく知られている出来事です。

一二

1 こんな自慢話は全くばかげていますが、もう少し我慢してください。 私の見た幻と、主から示されたことについてお話ししたいのです。

2 34 十四年前、私は天に引き上げられました。 肉体のままか、それとも霊だけがか、なんてことは、聞かないでください。 私にはわからないのです。 答えられるのは、神様お一人です。 しかしいづれにしても、私はパラダイスに引き上げられたのです。 4 そこで、人間にはとうてい表現できない、驚くべきことを耳にしました。 [とにかく、その内容を人に話すことは、禁じられています。] 5 こんな経験こそ、自慢するに値します。

しかし、自慢しようとは思いません。 私が誇ろうとしているのは、自分の弱さと、そして、こんなに弱い私を、ご自分の栄光のために使ってください、神様の偉大さだけです。

6 私には誇るべきことが、たくさんあるのですから、たとえ誇っても、愚か者にはならないでしょう。 しかし私は、だれにも、私の生活やことばから実際に見聞きする以上に、買いかぶってほしくないのです。

7 このことも、つけ加えておきましょう。 この経験があまりにすばらしかったので、神様は、私が高ぶってはいけないと心を配られました。 それで、肉体に一つのとげを与えられたのです。 それは、高慢にならないように、苦痛を与え、悩ますための、サタンの使いです。 8 私は、もとどおりに回復させてくださいと、三度も神様にお願いしました。

9 そのつど返ってくる答えは、こうでした。 「いや、治すまい。 しかし、わたしはあなたと共にいる。 それで十分ではないか。 わたしの力は弱い人にこそ、最もよく現われるのだから。」 今では、私は、自分の弱さを喜んで誇ります。 力や才能を見せびらか

すのではなく、喜んでキリスト様の力の生き証人になりたいのです。 10すべてはキリスト様のためであることを知っているのです、その「とげ」も、侮辱も、苦しみも、迫害も、困難も、大いに喜んでいます。 なぜなら、弱い時にこそ、私は強いからです。——無力であればあるほど、それだけしっかりと、キリスト様によりすぎるようになるからです。

11結局、私を、自慢ばかりする愚か者にしてしまいましたね。ほんとうは、こんなに私に書かせるべきではなく、あなたがたが私のことを書くべきなのです。 たとい私が全く価値のない者であるとしても、あのお偉い先生方と比べて、劣る点は何一つありません。

12私はあなたがたのところで、自分がほんとうに神様から遣わされた使徒である証拠を、すべて明示したではありませんか。 つまり、多くの驚くべきこと、しるし、力ある働きを、忍耐強く行なったのです。 13私がほかのどの教会の場合とも違って、あなたがたには、しなかったことが、一つだけあります。 負担をかけなかったことです。 食物や住む場所のことで、何一つやっかいになりませんでした。 この不公平については、どうか赦してください。

14今、私はあなたがたのところに行こうと、三度目の計画を立てています。 今度も、あなたがたには負担をかけないつもりです。 私がほしいのは、お金ではなく、あなたがた自身だからです。 いずれにしても、あなたがたは私の子供です。 小さな子供は親を食べさせる必要はありません。 その逆です。 親が子供を食べさせるのです。 15私はあなたがたを霊的に養うためなら、喜んで自分自身でも持ち物すべてでも、すっかり差し出します。 たとい、私が愛すれば愛するほど、ますます、うとまれるようになって、そうします。

16あなたがたの中には、こう言っている人がいます。「確かに、パウロは来ても、何の負担もかけなかったように見える。 だが、あいつは卑劣なやつだから、きっと陰で、うまいこと金をまきあげていたに違いない。」

17どうして、そんなことができたでしょう。 私が行かせた人たちのうち、だれか、あなたがたを利用しましたか。 18私はテトスにコリント行きを勧め、また、ほかの友人を同行させました。 彼らがあなたがたをだまして、何かもうけ仕事をしたのでしょうか。 もちろん、そんなことはしませんでした。 私たちは、同じ聖霊様をいただき、同じ歩調で歩いて、同じ方法で行動しているのですから。

19よく思われたいばかりに、こう書くのだ、と思っていることでしょう。 でもそれは、全く見当違いです。 神様の前で、宣言しておきます。 愛する皆さん。 私がこう書いてきたのは、あなたがたを助けるため、その信仰を成長させるためであって、自分のためではありません。 20心配なことがあります。 私がそちらに着いてみると、期待はずれの状態で、そのため、あなたがたの望まないような行動をとらざるをえない事態が生じないかということです。 もしかしたら、そちらでは、争い、ねたみ、怒り、横暴、悪口、陰口、高慢がいっぱい、秩序がすっかり乱れているのではないのでしょうか。 21実際、あなたがたの面前で、神様が私を、穴があったら入りたい思いにされるのではないでしょ

うか。そして、前々から罪を犯していながら、その邪悪で汚れた行ない——好色、不道徳、他人の妻の横取りなど——を全く気にもかけていない多くの者を見て、悲嘆にくれるのではないのでしょうか。このことが、ほんとうに心配なのです。

一三

1あなたがたのところへ行こうとするのは、これで三度目です。旧約聖書には、「二人か三人に目撃された悪事は罰せられなければならない」とあります。〔ところで、これは、今度の訪問にあたっての、三度目の警告です。〕 2私は、前回の滞在中、前から罪を犯していた人たちに、すでに警告しておいたはずですが、今また、彼らばかりか、あなたがた全員にも、同様に警告します。今度あったら、きびしく罰するつもりです。容赦はしません。

3あなたがたは、キリスト様がほんとうに私を通して語っておられるかどうか、知りたいのでしょから、その証拠を示します。キリスト様は、あなたがたに弱い態度をとられるのではなく、あなたがたの内部で強大な力を発揮なさいます。 4キリスト様の人間としての弱い体は、十字架上で死にました。しかし今や、キリスト様は、神様の偉大な力を受けて生きておられます。 私たちもキリスト様同様、肉体的には弱い者でしたが、今はまた、キリスト様に似て、強く生きる者となっています。そして、あなたがたに対処するに十分な神の力を、いただいているのです。

5よくよく自分を吟味しなさい。ほんとうにクリスチャンだと言えますか。クリスチャンとしてのテストに合格していますか。自分の内に住まれるキリスト様と、そのあふれる力とを、いよいよ強く実感していますか。それとも、事実とは裏腹に、ただクリスチャンのふりをしているだけですか。 6私たちはこのテストに合格し、確実に主のものとなっています。このことを、あなたがたに認めてほしいのです。

7あなたがたが正しい生活をするように祈っています。それは、私たちの教えの正しさが証明され、面目を施したいからではありません。たとい私たちは軽べつされようとも、あなたがたには、正しい行ないをしてもらいたいからです。 8私たちの務めは、いついかなる時にも、正しいことを勧めることであって、悪を望むことではありません。 9自分は弱くて軽べつされても、あなたがたがほんとうに強くなってくれば、うれしいのです。最大の願いと祈りは、あなたがたが一人前のクリスチャンになってくれることです。

10今この手紙を、そちらに行って、しかったり罰したりしないですむようにと願いつつ、書いています。私に託されている主の権威を、あなたがたを罰するためではなく、強くするために使いたいからです。

11最後に、次のように書いて、筆を置きます。

喜びなさい。

キリスト様に属する者として成長しなさい。

私のことばを心にとめなさい。

互いに仲よく、平和に過ごしなさい。

どうか、愛と平和の神様が、あなたがたと共にいてくださいますように。

12 主にあって、互いに親しみをこめて、あいさつを交わしなさい。 こちらのクリスチャン全員が、心からよろしくと言っています。 13 どうか、主イエス・キリストの恵みが、あなたがたと一同にありますように。 神様の愛と聖霊様との交わりが、あなたがたのものとなりますように。

パウロ

▪